

の看板が見にくい。



見えにくい看板

答 観光地として十分認識しなければならぬ。もう一度精査してどこが見て頂ける場所なのか検討していきたい。

問 市長の指定する職員の担当部署、今まで指導・勧告・命令をした事実はあるのか。

答 立ち入り調査の部局は市民部環境生活課であり、空き地の管理・草刈・自宅周辺のゴミの散乱、犬の糞や猫の放し飼いななど、年間30〜40件の指導を行っており、勧告・命令については無い。

問 空き缶の回収容器が設置されていない所もあるが、どのような経過なのか。

答 空き缶回収容器の設置は、平成15年度78・2%で、100%を目標としていかねばならぬという考え方で進める。条例の理解を深めると共に、設置の状況の調査をしていきたい。

らぬという考え方で進める。条例の理解を深めると共に、設置の状況の調査をしていきたい。

広域で野外焼却の取組みは

問 富良野市として農業観光やクリン農法に取り組み中、温暖化の一因となるあぜ草の野外焼却禁止の周知を、富良野広域で取り組む必要があるのではないか。

答 あぜ草の焼却については害虫駆除などの目的もあり認められているが、火の粉や煙の周辺への影響、環境への配慮などが当然必要である。農村地区の野焼きについては、現在、JAふらのや関係団体に対して、適正処理をするように指導啓発を行っている。

岡野 孝則

〔民主クラブ〕

農村観光都市形成

問 観光都市として、長期滞在型観光地への体制、基盤などを含めた環境整備内容は、

答 本市の山岳田園風景はも

とより、一次産業を中心とした農・林業の体験や、文化・芸術・学術・スポーツなど、優れた人材を有し、様々な観光資源の豊かな地域であり、短期・長期滞在型観光を推進し、タイムリーな情報提供、イベント開催など、今後とも滞在者のニーズに応える体制の基盤整備を図って行く。



農村観光風景

問 農業と観光業との連携策と、その団体名、事業内容は、

答 農業者の取組み支援、体験観光受入れのためのネットワーキ化を図り、農業の大切さ、自然環境などを再認識し、連携する団体は、農業としてJAふらの、ファームイン研究会、パイオニア会など、観

光業としては、観光協会、宿泊施設団体、NPO法人などと連携し、事業内容は、農業体験、エコ観光、演劇、文化など、市民と同じ生活ができる半住民として事業推進。

問 農村観光都市形成の将来展望と目標は、

答 市内各関係機関、団体を交え、富良野市内観光振興計画を策定し、今後、目標と経済効果等を示して行く。

本市の雇用対策

問 本市の雇用状況を伺う。

答 昨年の有効求人倍率は、全国で1・02倍、全道で0・53倍、旭川管内で0・48倍、富良野地区は0・73倍で、一次産業、各企業の努力により全道平均を上回っているが、依然厳しい状況である事は認識している。

問 過去3年間推進した雇用促進協議会の成果と今後は、

答 雇用促進協議会設置により、人材育成などの事業を展開、新規雇用者は、160名で一定の成果を見た。今後に於いては本年5月28日に沿線化協議会を設置、地域雇用創造推進事業(新パッケージ事

業)採択に取り組む方針。
問 市内には無い製造業等の企業誘致の考えは、

答 市内への企業推進、市内事業者の事業拡大促進のため昨年12月、富良野市企業振興促進条例を改正、指定要件緩和、今後とも、本制度を積極的にPR、農業やIT関連など、企業誘致に取り組む方針。

覚幸 伸夫

〔民主クラブ〕

東西アクセス道路の考え

問 富良野協会病院の移転により、駅前市街地の車および人の流れが変わり、中心市街地の活性化が損なわれる。駅東と駅西を結ぶ、駅構内を交差するアクセス道路について、平面交差の進捗状況と立体交差の可能性を伺う。

答 現在、平面交差はJRと駅舎の活用問題、バリアフリーを優先的に進めて、この課題整理のあとにアクセス道路の課題に取り組む考えである。また、立体交差の可能性については用地の確保、交通